

# 1. 理念、目標、方針

## 1. 建学の理念

本学園設立準備委員会設立(1972.9)後、初代学長の**大野精七**(学長在任:1974.4~1977.6)は、設立決議(1972.10.2)において、教育本来の理想を知育、徳育、体育の合一的実現とし、「知、徳、体、三位一体の全人格を復活し、ますます多様化する国際社会の中で信頼できる有能な人材を送り出し、後世に誇り得る学園を完成したい。」と建学の抱負を述べ、薬学部を筆頭として1974年に**医科系総合大学**を目指して本学を設立した。現在では、薬学部、歯学部、看護福祉学部、心理科学部、リハビリテーション科学部及び各大学院、並びに歯学部附属歯科衛生士専門学校を有する**医療系総合大学**として名実ともに**新医療人育成の北の拠点**へと成長している。

### 建学の理念

#### 知育・徳育・体育 三位一体による医療人としての全人格の完成

「知」とは、真理の探究心に裏打ちされた確かな知識・技術の修得、「徳」とは、幅広く深い教養と豊かな人間性を培うこと、「体」とは、健康で活力ある美しく強靱な心身を養うことを示す。つまり、知・徳・体の統合による全人教育が本学の建学の理念である。

**第2代学長の安倍三史**(学長在任:1977.7~1991.3)は、抽象的な理念をより具体的にするため、「本学の教育の標的は、知育・徳育・体育。新しい言葉で言えば、知性の上に理性、そして感性を蓄積させることである。基礎的知識も必要であるが、知的訓練も必要である。実験実習の中で知識を確かめることである。自分が有機的に吸収した知識を使い、どう自己表現するかを自分の頭で考え、自分の心と体で行動することである。人間の心のうずきの共感を通して良い医療人を創り上げるのが教育の狙いである。」と述べ、「建学の理念」を「知性と理性と感性に支えられた人間性豊かな医療人の育成」と表現し、一層の普及・推進に努めた。

また、高度情報・超高齢・生涯学習体系・グローバル化・進歩化、そして、学生主体の教育、患者主体の医療が問われる21世紀に向け、「魅力ある大学像」を指標とする「21委員会(1990.8~1993.3)」を組成し、大学改革に着手した。

「人生は感激。喜びと悲しみ、ほほえみと涙、それは人々の心を洗い、自分の人生のトーンを高くします。」(1981.3.20)とも述べたことから分かるように、「人間性豊かな医療人」を創り上げることが安倍学長の願いであり、誰より深く学生を愛し、機会あるごとに「よりよく生きよ」と語りかけた。このような建学の理念を下に、青年期の人格形成を重視し、学生の自立と自己実現を支援する教育を実施していく中で、本学の特色である家族的で温和な学風が形成されていった。かくして、本学を巣立った学生たちは、地域の医療に貢献する専門職業人として、高い評価を受けている。

## 2. 教育理念、教育目標

**第3代学長の富田喜内**(学長在任:1991.4~1999.3)は、1991年:大学設置基準の大綱化、1993年:看護福祉学部の開設を契機に、21世紀へ向けて「**保健・医療・福祉系の総合大学**」として発展を期するため、1993年には「建学の理念を前提とした将来における本学のあるべき姿」と「人間性を重視した思いやりのある医療人の将来像」との融合を「21委員会」において検討し、「教育理念」「教育目標」を標榜、「魅力ある大学づくり」の推進を図った。1998年には、「教育理念」「教育目標」の一層の普及・推進を図るため発足した「**教育理念・目標の普及推進委員会(1996発足)**」により改訂を行い、本学の「**教育改革の指針**」とした。現在の「教育理念」「教育目標」は、従来の志向を踏襲した上で、自主性、創造性、協調性の確立や国際社会への貢献を強調した内容である。

### 教育理念

生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって、地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。

#### ①「生命の尊重と個人の尊厳」

医療を担う者にとって、「生命の尊重」は最も基本的な原理であるが、今日では同時に、医療を受ける者の人格をも尊重しなければならない。つまり、生命の尊重と人格の尊重のバランスを図ることが大切であり、「学生中心の教育」の実践と「患者中心の医療」の推進が本学の教育の基本である。

#### ②「保健と医療と福祉の連携・統合」

高齢化社会における医療は、単に診療のみならず、疾病予防やリハビリテーション、さらにはケアや福祉を含んだ、広範囲で包括的なものにならざるを得ない。よって「保健と医療と福祉の連携・統合」とは、これからの新しい医療理念であり、本学の教育は、この新しい理念の下に行われる。

#### ③「人間性豊かな専門職業人を育成」

新しい医療・教育の推進を通して、人間性豊かな医療や福祉の専門職業人の育成を図ること、すなわち、知性・理性・感性の調和した人間を育成することが本学の教育の基本理念である。

#### ④「社会に貢献する」

「人類あるところに医療あり」。医療や福祉の究極の目的は「人類の幸福」である。本学はこれから社会に貢献する大学を目指し、「地域社会ならびに国際社会に貢献する」職業人を育成していかねばならない。そのため、教育、研究、医療、文化等あらゆる場面において、地域社会及び国際社会との交流を深めていく必要がある。

### 教育目標

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 1. 幅広く深い教養と豊かな人間性の涵養 | 2. 確かな専門の知識および技術の修得 |
| 3. 自主性・創造性および協調性の確立  | 4. 地域社会ならびに国際社会への貢献 |

#### ① 豊かな人間性の涵養

保健・医療・福祉の業務に携わる者にとって必要な、倫理観、責任感、人に対する「思いやり」や「やさしさ」等、幅広く深い教養と豊かな人間性を涵養する。

#### ② 専門の知識及び技術の修得

保健・医療・福祉へ生涯にわたり貢献できるよう、それぞれの専門知識及び技術を修得する。

#### ③ 自主性及び創造性の尊重

科学技術の進歩や社会の変化に柔軟に対応し、やがて自ら新しい時代を切り開くことが出来るよう、学生の自主性及び創造性の確立を目指した教育を行う。

#### ④ 社会の要請に的確に対応できる教育

教育の高度化、個性化、国際化、情報化、生涯学習の時代等、常に変化する社会の要請に的確に対応できる教育を推進し、地域社会及び国際社会に貢献することを目標とする。

### 3. 行動指針・目標

第4代学長の廣重力(学長在任:1999.4～2006.3)は、「選ばれる・魅力ある大学づくり」のため発足した「2008行動計画委員会(1998.4～2009.3)」での検討の中、21世紀に向けた本学の行動目標として、ケア・システムの体系的構築、即ち、「21世紀の新しい健康科学の構築」を本学の行動指針とし、「学生中心の教育と患者中心の医療の推進」「文理統合をベースにした個体差健康科学の構築」「社会と共生協働する自由で開かれた大学を志向」「組織は自律性を高め、構成員は、自律性、創造性を発揮」の4項目を設定した。また、2004年度からは中長期計画:「08計画(1999.4～2009.3)」の後半5年間における大学改革を「新5カ年行動計画(2004.4～2009.3)」として中期目標を策定、「教育-学生中心の教育」「研究-研究の個性化」「医療-患者中心の医療」「社会-社会への貢献」「組織-組織の活性化」の5つをキーワードに、「新医療人」を『「文理統合をベースにした個体差健康科学の構築—これによる個体差医療の実践」を目指す若者たち』/『医療福祉分野における国家試験等を有する質の高い専門職業人であるばかりでなく、時代のニーズを先取りする先見性と特技(個体差医療科学の実践)を持ち、使命感に基づいた行動力を兼ね備えたリーダー的存在』と定義し、新たな行動目標「新医療人育成の北の拠点を目指して」をスローガンに掲げ、教育・研究・医療・社会貢献・健全財政の5項目について更なる大学改革を推進した。

#### 行動指針

##### — 21世紀の新しい健康科学の構築 —

本学に対する社会の要請と期待に応えるため、社会と共生・協働する自由で開かれた大学を志向し、常に組織としての自律性・透明性を高めながら、構成員一人ひとりが自主性・創造性を発揮することにより「学生中心の教育」並びに「患者中心の医療」を推進しつつ、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究することを、本学の行動指針とする。

#### ① 個体差医療時代の健康科学

21世紀は医療の個体差化が急速に進展するであろう。これまでの平均値医療から個体の特性に応じた個体差医療又は個別化医療の時代への移行が予想される。いわゆるレディメイドの医療からテイラーメイドの医療へと変身することが予想される。今、ケア・システムの科学体系を健康科学と呼ぶとすれば、健康科学も個体差の科学的根拠をベースに構築されなければならない。

#### ② 文系と理系の統合

21世紀は、ヒトゲノムの解明によって人間の存在の物質的基盤が明らかにされると同時に、人間の人間たる所以、即ち「こころの問題」があらためて問われるであろう。新しい健康科学を構築する立場からこれをアカデミックにみれば、この問題は「こころと物質」をどのように科学的立場で結びつけるかが問われていることを意味する。あるいは「価値体系と自然科学系の統合」、平たく言えば「文系と理系の統合」が問われているということである。

第5代学長の松田一郎(学長在任:2006.4～2010.3)は、「廣重前学長が掲げた新医療人育成の北の拠点を目指すとする行動目標と個体差健康科学の理念を本学の基本的姿勢として継承したうえで、人間基礎教育、専門教育を含め、学部間の垣根を低くすることにより医療系総合大学としての強みを発揮し、『北』を北に位置するというだけの単意的文言ではなく、忍耐強くおらかな性質を育み、生きるための様々な知恵を与えてくれる『環境』『恵み』として捉え、保健・医療・福祉の基本理念を自分自身の信念とする各分野でのプロフェッショナルを育成することが本学の使命であり、この目標を追いかける大学にしたいと心から念じている。」と就任挨拶で述べた。また、本学のあるべき姿を明確にするため、廣重前理事長のリーダーシップの下で組まれた中長期計画の骨格づくりを行う「特別プロジェクト(2007.9～2009.3)」の目標『「新医療人育成の北の拠点」たる大学づくり』、選ばれる大学として社会の要望に応える大学改革を推進するべく、「医療系ブランド人材育成(教育力向上)」、「キャンパス再構築」、「医療機関の将来展望」、「経営管理」の4つを柱とした中長期計画:「2020行動計画(2009.4～2020.3)」の目標『パラダイムシフトによる新医療人育成の北の拠点づくり』の実現に向けた様々な取組を行い、未来に向け勝ち残る大学を目指した。

第6代学長の新川詔夫(学長在任:2010.4～2016.3)は、「2020行動計画」を継承し、本学の提唱するスローガンに照らし合わせてそれを具体化する「見える化」を遂行、全体期間の第二四半期を迎えた推進フレームの再編(2012.5)を行い、一層豊かな改革の歩みに向け重点項目に即した様々な取組を実施している。「2020行動計画」の期間の折り返しを迎え、東郷重興理事長の下、これまでに築き上げてきた各プロジェクトの流れを尊重しつつ、計画の深化を推進した。(参照:巻頭特集1)

### 4. 三方針(北海道医療大学)

「2020行動計画:教育力向上PJ」において全学教育の実質化を目指して検討し、教育理念・目的に基づき、大学教育の根幹をなす「入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)」「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」の三方針(北海道医療大学)を制定した(2010.11)。

なお、大学等が公的な教育機関として、社会に対する説明責任を果たすとともに、その教育の質を向上させる観点から公表すべき情報を法令上明確にし、教育情報の一層の公表の促進を図ることを目的とした「学校教育法施行規則の改正(2010.6.15)」により、各大学等における「教育研究活動等の状況」に係る情報公表が義務化(2011.4.1～)されたことに伴い、各項目とともにホームページ上で公表している。

#### 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

北海道医療大学は、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究し、社会の要請と期待に応えるため、保健と医療と福祉に関する高度の研究に裏打ちされた良質な教育を行います。その教育を通して、チーム医療をはじめ地域社会や国際社会に貢献できる自立した専門職業人を育成することを目標としています。

そのため、本学では次のような人材を広く求めています。

1. 入学後の修学に必要な基礎的学力を有していること。
2. 協調性や基礎的コミュニケーション能力を有していること。
3. 生命を尊重し、他者を大切に思う心があること。
4. 保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持っていること。
5. 生涯にわたって学習を継続し、自己を磨く意欲を持っていること。

#### 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

北海道医療大学は、「保健と医療と福祉の連携・統合」をめざす教育理念を基本として、広く社会に貢献できる確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成するために、「全学教育科目」と各学部・学科の「専門教育科目」からなる学士課程教育を組んでいます。

#### 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

北海道医療大学は、各学部・学科の教育理念・目標に沿った学士課程の授業科目を履修し、保健・医療・福祉の高度化・専門化に対応しうる高い技術と知識、優れた判断力と教養を身につけ、かつ各学部が定める履修上の要件を満たした学生に対して「学士」の学位を授与します。